昭和59年　第927号
12月2日

市報 にいがた

市の人口
前月比
人口 464,125(+405)
男 227,232(+210)
女 236,893(+195)
世帯数 151,022(+240)
59年10月末現在

発行日 毎週日曜日
発行所 新潟市役所
新潟市西堀通6番町866
電話 (28)1000
編集 企画部広報課
印刷所 ㈱第一印刷所

関屋地区でも7月から実施

広がる空ビン回収の輪

省資源とごみ埋め立て地の延命

11月19日に実施された関屋地区の空ビン回収

省資源、ごみ埋め立て地の延命につながるとして注目されている「空ビン回収」が、松浜・南浜・濁川地区に続いて、関屋地区でも七月から行われました。十一月現在で関屋地区四十八自治・町内会のうち、三十四自治・町内会が参加し、徐々に運動の輪が広がっています。集められた空ビンは、一キロ当たり二円で引き取られ、亀田町にあるリサイクルセンターでビンの原材料として生まれ変わります。売り上げ代金は、回収した自治・町内会へすべて還元されます。市では今後、この運動を地域の皆さんの協力を求めながら、順次広めていきます。

今までごみとして捨ててきた空ビンを回収し、業者が有料で引き取り、資源として再利用する「空ビン回収運動」。

この運動は、松浜地区の婦人会のメンバーで組織する生活学校や自治会婦人部を中心と した市民運動として芽生え、五十八年五月、松浜地区で本格的にスタートしました。

現在、松浜、濁川、南浜の三地区全域で行われています。

今年から関屋地区でも始まり、十一月十九日、五回目の空ビン回収が行われました。

午前六時半から八時までに集められたビンは六千四百八十キログラム。今回で五回目ということで、持ち込み世帯、回収量ともに増え、定着がうかがわれます。

一回目の七月は、四十八自治会わずか九自治会の参加でしたが、今回は三十四自治会に増え、回収運動の輪が広がっています。

この運動は、燃えないごみとされている空ビン―商店や廃品回収業者が引き取らず、分別ごみとして出している油ビン、化粧ビン、薬ビン、ウイスキービンなど―を分別収集し、資源として再利用するものです。

県内では、百十二市町村のうち約二十市町村で実施されています。

現在市内には濁川と赤塚にごみ埋め立て地がありますが、燃えないごみが減って、少しでも埋め立て地が長く使えればと期待がかけられています。

この運動に熱心に取り組んでいる関屋浜松町自治会長の**槻信礼**さんは、「四月にできたばかりの老人クラブが中心となり、月一回、第三月曜日の朝六時半から八時の間、空ビン回収に立ち会っています。始めたときは、まだ油が残っているビンを出す人がいたが、今ではそれもなくなりました。できるだけ多くの空ビンを回収することでごみの量が減り、ごみ処理の経費が節約でき、ひいては、税金が有効に使われるのでは…。そのためにも、市内全域で空ビン回収運動を進めていかなければなりません」と力強く語ってくれました。

あなたの町内でも始めてみませんか？

始まったばかりの空ビン回収と同じ趣旨の運動に、市が五十三年に自治会、婦人会を対象に市民活動として提唱した〝資源回収運動〟があります。

古新聞、古雑誌、ダンボール、古繊維、ビールビン・一升ビンなどの空ビン、金属の六種類を回収しているこの運動は、着実に広がり、回収実績も年を追って順調な伸びを見せています。

今年三月末現在、五十三年以前から実施している団体を含め、三百二十二団体、五万五十三年に自治会、婦人会を対象に市民活動として提唱した〝資源回収運動〟があります。

古新聞、古雑誌、ダンボール、古繊維、ビールビン・一升ビンなどの空ビン、金属の六種類を回収しているこの運動は、着実に広がり、回収実績も年を追って順調な伸びを見せています。

今年三月末現在、五十三年度の総売り上げ額は五百二十五万円にのぼりました。

空ビン回収と同様に、売り上げ金は回収団体が受け取り、地域の行事や子供会の費用などに当てられています。

まだ、資源回収に取り組んでいない皆さん、ぜひあなたの地域でも回収してみませんか。

相談先 清掃課（市役所五階）

開公緑町マンション分譲中

9日に現地で見学会

市開発公社では、緑町にある「開公緑町マンション」を分譲中です。

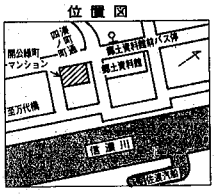
場所は、国の指定文化財「旧新潟税関庁舎」＝市郷土資料館近くにあり、古町十字路まで徒歩約二十分の距離にあります。

価格は、千七百二十五万円から二千五百五十万円まで十四戸あり、百万円の頭金で入居が可能です。しかも頭金特別融資制度（年六・五％）もあります。住宅金融公庫融資（年五・五％）と併わせてご利用できます。

十二月九日、現地で見学会を開きます。ご家族そろってどうぞおいでください。

〈現地見学会〉
日時 十二月九日午前十時～午後三時
場所 緑町三四三七―一四
バス 関屋大川前・入船町線「郷土資料館前」バス停下車徒歩約一分
価格 一七二五万円～二五五〇万円（十四戸）
問い合わせ 市開発公社（☎23―二六〇二）へ

位置図



今田信次さんら優良従業員を表彰

今年で十七回目を迎えた「表彰」が十一月二十二日、若杉市長ら関係者二百人が出席し東映ホテルで行われました。

若杉市長は「たくましい都市建設のためには企業の活力が欠かせない。企業の発展は、それを支える従業員の結束なくしてはあり得ない。職場のリーダーとしての皆さんの役割に期待したい」とあいさつ。

今年は、百六十人が受彰、**今田信次**さん（勤続三十年）ら代表九人が、若杉市長から感謝状を手渡されました。

受彰者を代表して**渡部太一**さん（勤続三十五年）が、「この栄誉にこたえ、一層精進を重ねたい」と謝辞を述べました。

中小企業は、〝人〟が財産とよく言われますが、受彰した皆さんは、いずれも一騎当千の精鋭です。

若杉市長から感謝状を受ける今田信次さん

私の散歩道 ⑥⓪

鳥屋野潟南岸

絵の左手に鳥屋野潟がある。湖畔でもこの辺はシンボルの桜も水もない。砂利が敷かれたデコボコ道で、時々自転車を降りて押さなければならなかった。

鉄筋コンクリートの建物がそびえ、桜並木の下も舗装されて車が交差する対岸の近代的な姿とは、あまりにも対照的で、せつないまでに楚々（そそ）としている。この風物に私は足を止めた。一昨年の早春のことであった。

日を待たずして、この自然も姿を消すであろう。今のうちに、もう一度陽光を浴びてこの風物のなかに独り佇（たたず）みたいと思っている。

中塚　良一（58歳、小新）

市報にいがた「除雪特集号」は12月9日に発行します

〈スパイクタイヤ〉 道路摩耗の防止と粉じんによる環境の汚染を防ぐため、スパイクタイヤを使用しないようにお願いします。

新大教育学部附属小学校 第一学年児童を募集

応募資格 昭和53年4月2日から昭和54年4月1日までに生まれ、新潟市内に居住する児童（昭和60年4月8日までに、新潟市に転入予定を含む）
願書受け付け期間 12月10日～15日
募集人員 第一学年男女各45人
申込先 新大教育学部附属小学校事務室（☎23―6161）へ ※「募集案内」は申込先にありますので、あらかじめ取りにおいで下さい。

庭作り相談室

日時 12月2日午後1時～3時
会場 園芸センター（越後石山駅近く）
相談員 新潟緑化保全協会員

電話案内

市役所	28―1000
教育委員会	25―1000
体育課	67―1821
体育施設管理センター	66―8111
火災の場所を知りたいとき	24―1111
市民病院	41―5151
園芸センター	86―1034
東保健所	43―5311
石山地区保健センター	86―4450
鳥屋野地区保健センター	85―2373
北地区保健センター	59―7332
西保健所	66―5171
西地区保健センター	62―3405
坂井輪地区保健センター	60―3255
市医師会休日急患診療センター	31―4135
県歯科医師会休日歯科診療センター	83―3030